

<p>件名</p>	<h1>生物多様性の保全に資する活動について</h1> <h2>～絶滅危惧種再生プロジェクト等～</h2>	
<p>発表者 所属</p>	<p>環境政策局 適正処理施設部 北部クリーンセンター</p>	
<p>改善前 (課題等)</p>	<p>北部クリーンセンターでは、京都発の環境マネジメントシステムであるK E Sの登録事業者として、生物多様性のための活動を平成26年度から取り組み、ヒマワリ、アサガオ、菜の花などの育成による施設内緑化を進めてきたが、平成26年3月に策定の京都市生物多様性プランにおいては、市民の生物多様性に関する認知度や絶滅危惧種を含む希少植物の生息場所の減少などが課題として取り上げられていた。</p>	
<p>内容</p>	<p>○環境テーマ広場としての公園広場の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリーンセンター敷地の公園広場やトンネル入口付近にヒマワリ植栽エリアを拡大し、玄関口のイメージ向上を目指したところ地元住民との交流が生まれた。 ・取組に共感された地元の方から、園芸種のフジバカマを分けていただき植栽し、海外との渡りをする蝶アサギマダラが多数飛来することを今季確認した。28年度は、公園広場に植栽し、飛来した蝶を地元住民に観覧してもらう予定である。(3月28日植栽済み) <p>○雨庭を活用したフジバカマ・フタバアオイの再生プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境省の絶滅危惧種や京都府のレッドデータブックでも絶滅寸前種に選定されている「フジバカマ」や、「フタバアオイ」という植物の育成・再生に取り組み、京都市生物多様性プランの生きものの保全・再生に資する取組として「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト」に認定された。この取組は、パネルにして施設見学に来られた方に紹介している。 ・育成場所には、降った雨を一時的に貯留する構造がフジバカマやフタバアオイの育成に適していることから、4階中庭の雨庭に職員で育成ゾーンを整備した。9月下旬から10月中旬にかけては、この雨庭で開花したフジバカマにもアサギマダラが飛来した。 	
<p>効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーンセンターの公園広場を環境テーマ広場へと整備することで、子供たちが自然に興味を持つきっかけとなる学習フィールドとして活用できる。 ・取組を通して見学者や地元の皆様など多くの方に、京都市が推進する生物多様性の保全に向けた取組への理解やクリーンセンターのイメージアップにつながる。 	

<p>件名</p>	<h1>熱中症予防の効果的な普及啓発の取組</h1>
<p>発表者 所属</p>	<p>保健福祉局 保健衛生推進室 保健医療課</p>
<p>改善前 (課題等)</p>	<p>① ヒートアイランド現象や、地球温暖化による影響等により、熱中症にかかる方が増加している。 ② 電力需給がひっ迫する場合への備えとして、節電対策も求められている。 ③ 京都は外国からの観光客も多い。</p>
<p>内容</p>	<p>祇園祭において、熱中症予防の声かけを実施</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; background-color: #e0f0ff; text-align: center;"> <p>昨年 の声かけグッズ</p> <p>涼太郎ミニうちわ 塩あめちゃん 暑中見舞いはがき</p> </div>  </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;"> 説明書英語版 ● 熱中症予防のポイント ● 暑中見舞いの意味 </p> <p>【その他の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 職員は、浴衣を着用して声かけを実施 ● はがき記入コーナーの設置 ● 上下水道局，国際化推進室，熱中症予防声かけプロジェクト等，様々な機関との連携
<p>効果</p>	<p>多くの観光客の興味を引いて足を止めていただき、効果的な熱中症予防の普及啓発となった。</p>

件名	わくわくワーク☆いきいきライフプロジェクト 「チーム Douken」 情報共有・効率化プロジェクト
発表者 所属	建設局 道路建設部 道路建設課
改善前 (課題等)	<p>道路建設課は、40名を超える職員が9つの係に配属されている、非常に大きな組織であり、係単位で複数の事業を担当している。</p> <p>その上で、時間外勤務時間の更なる縮減、係を超えた情報の共有や職員間の連携・協力の強化が課題であった。</p> <p>また、平成26年4月の組織改正で事業推進室が道路建設課に移管され、2つの組織が1つの組織になったため、既存の資料が多く、課内のスペースを圧迫していることも課題であった。</p>
内容	<p>1 わくわくワーク☆いきいきライフプロジェクト</p> <p>① 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現や「いきいきプラン～10のきまりごと～」を推進するためのワーキンググループとして、今年度から新たに「仕事・生活いきいきWG」を立ち上げた。</p> <p>② 忙しくても面白おかしく仕事ができる、風通しの良い職場づくりを進めるため、係を超えて検討や協議を行う課内横断型の4つ（用地活用、技術力向上、3S・市民対応力推進、仕事・生活いきいき）のワーキンググループ（以下、「WG」という。）を活用した。</p> <p style="text-align: right;">【全職員を対象とした検討会】</p>  <p>2 「チーム Douken」 情報共有・効率化プロジェクト</p> <p>① 情報の共有を図り、効率的に業務を遂行するため、技術力向上、用地活用等のWGにおいて、業務の課題等を検討するとともに、全職員を対象とした検討会や現場見学会を実施した。</p> <p>② 職場の作業環境の改善を図るため、3S（整理・整頓等）WGが中心となり、既存資料の整理のルールを定め、不要な資料等の廃棄処分を職員全員で行った。</p>
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度と比較して一人当たりの時間外勤務時間を縮減することができた。 ・ みんなできょうかんし、知恵を出し合うことで、さらなる職員間の連携・協力を図ることができた。 ・ 保管庫の整理や保管場所の確保など、作業環境の改善を図れた。

件名	職員の「寸劇」によるわかりやすい地域課題の提示
発表者 所属	下京区役所 地域力推進室
改善前 (課題等)	<p>当室では、「地域のつながり・町内会に関するアンケート」(下京区内の全小学校における児童の保護者を対象)を実施し、「下京区23学区の自治連合会会長及び市政協力委員連絡協議会会長と下京区幹部職員との懇談会」(以下、懇談会)において、報告することとした。しかし、若い世代の“生の声”であるアンケート結果には、従来の地域活動に批判的な意見もあり、懇談会でそのまま報告すると、地域活動の中心的存在である参加者(自治連会長及び市協会会長)から反発を招く恐れがあり、その後の議論の活性化につながらないといった懸念があった。</p>
内容	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>アンケート結果(若い人たちの「本音」)を、職員の「寸劇」に反映させて、懇談会参加者へ紹介した。「寸劇」の実施に当たっては、セリフや場面設定など、アンケート結果をどうやって反映させるかという課題があったが、子ども育みサポーターやまちづくりアドバイザーの協力も得ながら検討を重ね、実施にこぎつけた。</p> <p>(実施時期：平成27年8月)</p> </div> </div>
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・「寸劇」という「伝え方の工夫」を行ったことで、懇談会出席者の気持ちがほぐれ、その後の意見交換を活発に行うことができた。 ・アンケートの実施、寸劇によるアンケート結果の紹介、その後の意見交換会の開催によって、“地域コミュニティの活性化に対する区役所の本気度”を、懇談会出席者に伝えることができた。また、学区と区役所が一緒になって、下京区のコミュニティ活性化を進めていこうとする機運が醸成できた。 ・「寸劇」という、これまでにない取組にチャレンジしたことで、携わった職員達が積極的かつ楽しみながら職務に取り組む姿勢を身に付けることができた。

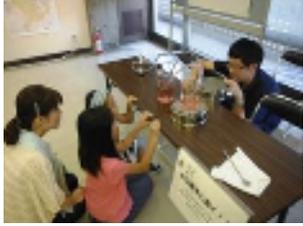
件名	<h1>スクラップバンクの創設</h1>												
発表者 所属	消防局 総務部 企画課												
改善前 (課題等)	消防局では、これまで所属ごとに業務の改善・効率化についての取組を進めていたが、各所属が単独で行っており、局全体で一体となった取組とはなっていなかった。												
内容	<ul style="list-style-type: none"> • 業務の改善、効率化を目的とした『スクラップバンク』を創設した。 • 局の所属全体で、無駄な業務はないか、効率的に業務を進める方法はないか等の検討を行い、その内容をスクラップバンクに登録した。 • その後、各所属において、登録内容のスクラップ実現に向けた取組を開始した。 • 企画課が登録内容の情報共有化、進捗管理、調整の役割を担い、取組を活性化させた。 <table border="1" data-bbox="443 836 1176 1171" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th data-bbox="443 836 600 884">項目</th> <th data-bbox="600 836 1176 884">スクラップ（見直し）の例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="443 884 600 979">会議</td> <td data-bbox="600 884 1176 979"> <ul style="list-style-type: none"> • 開催頻度の見直し • 出席者が重複する会議の同時開催 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="443 979 600 1027">職員研修</td> <td data-bbox="600 979 1176 1027"> <ul style="list-style-type: none"> • 類似の研修を統合して実施 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="443 1027 600 1075">業務分担</td> <td data-bbox="600 1027 1176 1075"> <ul style="list-style-type: none"> • 複数所属にまたがる業務の担当一本化 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="443 1075 600 1123">決裁</td> <td data-bbox="600 1075 1176 1123"> <ul style="list-style-type: none"> • 合議から事前協議への変更 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="443 1123 600 1171">様式</td> <td data-bbox="600 1123 1176 1171"> <ul style="list-style-type: none"> • 古い報告様式の廃止・簡略化 </td> </tr> </tbody> </table>	項目	スクラップ（見直し）の例	会議	<ul style="list-style-type: none"> • 開催頻度の見直し • 出席者が重複する会議の同時開催 	職員研修	<ul style="list-style-type: none"> • 類似の研修を統合して実施 	業務分担	<ul style="list-style-type: none"> • 複数所属にまたがる業務の担当一本化 	決裁	<ul style="list-style-type: none"> • 合議から事前協議への変更 	様式	<ul style="list-style-type: none"> • 古い報告様式の廃止・簡略化
項目	スクラップ（見直し）の例												
会議	<ul style="list-style-type: none"> • 開催頻度の見直し • 出席者が重複する会議の同時開催 												
職員研修	<ul style="list-style-type: none"> • 類似の研修を統合して実施 												
業務分担	<ul style="list-style-type: none"> • 複数所属にまたがる業務の担当一本化 												
決裁	<ul style="list-style-type: none"> • 合議から事前協議への変更 												
様式	<ul style="list-style-type: none"> • 古い報告様式の廃止・簡略化 												
効果	<ul style="list-style-type: none"> • 局の所属全体で、業務改善・効率化について取り組む機運を高めた。 • スクラップバンク登録内容について、順次スクラップ（見直し）を実施できている。 												

件名	<h2 style="text-align: center;">「大学生のための消防団訓練体験プログラム」の実施</h2>
発表者 所属	<p style="text-align: center;">消防局 北消防署</p>
改善前 (課題等)	<p>本市の消防団員は減少傾向であるとともに高齢化が進んでおり、消防局では、消防団員の入団促進を最重点目標に掲げているところである。その中で特に、若い世代における消防団員のなり手が不足していることが課題であった。</p>
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学生が多く居住する北区の特徴を生かし、希望する大学生に対して、消防団体験プログラムを実施した。 ・ 実際に、消防団の訓練を体験してもらうとともに、既に入団している学生消防団員との交流を深め、消防団に対する関心を高め、入団促進を図った。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">実放水訓練</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">水難訓練</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">煙中訓練</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">震災訓練</p> </div> </div>
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防団の活動について、学生に理解を深めてもらう機会となった。 ・ プログラム実施の結果、新たに2名の入団があった。 ・ 参加した大学生の学内での口コミ等により、更に8名の入団につながった。

件名	地下鉄烏丸線 10 系車両に係る機器交換手順書の作成
発表者 所属	交通局 高速鉄道部 車両工場竹田検車区
改善前 (課題等)	<p>地下鉄烏丸線 10 系車両では、1 日平均して約 3 件の故障が発生している。原因究明後、約 50% は機器交換で対応している。 ⇒故障等で交換する車両用機器は約 300 種類あり、交換用機器の保管場所や交換方法まで含めると膨大な知識が必要となる。 必然的に交換経験の差が、故障対応の質、所要時間を左右しているのが現状である。 ⇒特に、交換経験の少ない職員の機器交換は作業効率が悪い。(ミス等の大幅な時間ロスは遅延リスク増加に繋がる可能性。)</p>
内容	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>『改善内容』</p> <p>作業効率を向上し、時間のロスを軽減することで、迅速な故障対応と本線への遅延リスクの軽減を狙い、必要度の高い、31 種類の機器交換手順書を作成した。</p> <p>今後も内容の改訂や、種類の拡大(最終的に 300 種類全て)を図っていく。</p> <p>『工夫した点』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベテラン職員の人数が減少していることから、将来的な指導者としての知識を定着させるため、配属年数の少ない職員がベテラン職員の知識を盛り込み、交換手順書を作成した。 ・新規配属者が見ても理解しやすいように、文面での説明は簡略化し、写真や図を多く用いて直感的に理解しやすいようにした。 ・交換における注意事項を明記することで、受傷事故を防ぎ、安全な交換を行えるようにした。 ・機器交換後の確認項目(チェックリスト)を盛り込み、交換ミスを未然に防げるようにした。 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> <p>交通局応援キャラクター 太秦萌</p> </div>
効果	<p>交換経験のない(少ない)職員が正しい手順で、安全に交換する手順を習得した。結果、作業効率が改善し、当区全体の機器交換における作業時間(例:従来 60 分必要であった作業が、25 分でし終えることができ、35 分の)短縮に繋がった。</p> <p>また、作業時間短縮により、営業線ダイヤに対する影響が低下し、結果として遅延リスク低減に繋がった。</p>



お出かけは、便利な市バス、地下鉄をご利用ください！

件名	<h1>蹴上浄水場で自由研究の開催</h1>
発表者 所属	上下水道局 水道部 蹴上浄水場
改善前 (課題等)	蹴上浄水場では春に一般公開を行い、咲き誇るつつじと浄水施設を見ていただき、事業のPRを実施しているが、技術職員の専門知識を活用したものにはなっていなかった。
内容	<p>小中学生も含めたくさんの方々に水道事業に興味を持っていただくため、職員の技術提供を行いながら夏休みの宿題をお手伝いするイベント「蹴上浄水場で自由研究」を開催した。</p> <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 浄水場では化学、電気、機械、土木を専門とする技術職員がおり、その専門性を生かし、水を使った自由研究テーマを職員それぞれが企画し持ち寄った。 • 体験ブースを職員が主体的に考え工夫し運営した。 • イベント当日だけでなく、夏休みが終わるまで自由研究をサポートした。 • 実験の内容や補足資料をまとめ「学習ノート」として配布した。 • 所管を超えてイベントを行い、新しい企画を取り入れた。 <div style="text-align: right;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">      </div>
効果	<ul style="list-style-type: none"> • 多くの方々に水道事業への御理解を深めていただいた。 • 職場に満足感や一体感が生まれ、業務の効率化につながった。 • 継続的に業務改善していく風土が構築できた。

件名	監査のちから向上プロジェクト 「こつぼちゃん、文房具を買う（物品購入事務）」の作成
発表者 所属	監査事務局
改善前 (課題等)	 <p>定期監査において、繰返し指摘が減少しない。 (大きな事務ミスにつながるおそれがある。)</p> <p>理由 → 計理担当者（主に初任者）等が事務を正確に理解していない。</p> <p>理由 → どこにマニュアルがあるのか分からない。 マニュアルが難しすぎて分かりにくい。</p> <p>理由 → 制度所管課ごとにマニュアルを作成している。 初任者を対象としたマニュアルが少ない。</p>
内容	<p>効果の高い取組として… もっとも一般的でニーズがありそうな「物品購入事務」の流れを分かりやすく説明したものを作成しよう！</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ポイント</div> <div style="text-align: center;">  かんさら君 </div> <div style="text-align: center;">  こつぼちゃん </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 計理初任者を中心に多くの職員に読んでみようと思わせる。 物品購入事務の「流れ」を押さえることができるようにする。 特に知っておいてほしい重要なポイントを押さえるようにする。 </div> <div style="text-align: center; margin: 0 10px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> オリジナルのゆるキャラが登場するマンガやQ&Aを多用する。 細かい知識は制度所管課のマニュアル等の掲載場所を分かるようにしておく。 マンガの登場人物に重要なポイントをしゃべらせる。 </div> </div>
効果	<ul style="list-style-type: none"> 計理初任者が気軽に必要な知識を習得できる読みものが完成。 <p>⇒ 「分かりやすい。」「職場でPRしたい。」との反響があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政監査，財務監査，工事監査，それぞれの担当が「より良いものを作ろう！」と活発に議論。 <p>⇒ 職務の垣根を越えて意見交換ができた。</p>